

2025年度 庶務報告

〔1〕 会員異動

2025年度末における会員総数は7,400名である。

・内訳：正会員7,025名、看護師会員18名、特別会員35名、学生会員75名、賛助会員142名、名誉会員105名。

・資格保有者：医師6,169名、歯科医師60名、薬剤師606名、鍼灸師430名。

2025年度中の新入会員は367名、退会者は325名であった。

〔2〕 会議

2025年度における会議は次のとおり行われた。

理事会 8回（内書面審議0回）

社員総会 1回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

〔3〕 各支部との交流

北海道支部会

2025年10月5日（日）

元雄良治理事講演

東北支部会

2025年10月12日（日）

並木隆雄理事講演

関東甲信越支部会

未開催

東海支部会

2025年11月9日（日）

北陸支部会（会場開催）

2025年10月19日（日）

関西支部会

2025年10月26日（日）

中四国支部会

2025年10月12日（日）

鍋島茂樹理事講演

九州支部会

2025年11月20日（日）

田原英一会長講演

鍋島茂樹理事講演

2025年度 事業報告

機関誌発行事業

〔1〕 編集委員会（担当理事：高山真、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：植田圭吾）

1. 学会誌を下記の通り発行した。

第76巻第2号 2025年4月

第76巻別冊号 2025年5月

第76巻第3号 2025年7月

第76巻第4号 2025年10月

第77巻第1号 2026年1月

2. TRADITIONAL & KAMPO MEDICINEを下記の通り発行した。

Volume12 Issue1 2025 2025年4月

Volume12 Issue2 2025 2025年8月

Volume12 Issue3 2025 2025年12月

3. 2025年6月8日（拡大）、8月7日（拡大）、6月9日、9月10日、10月14日、11月4日、2026年2月3日（拡大）、（拡大会議、委員会及びメール会議）を開催した。

4. 2025年6月8日、日本東洋医学会学術総会において編集委員会企画を行い、TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE Top Cited Awards表彰式、受賞講演を行った。

調査研究事業

- 〔1〕健康保険担当委員会（担当理事：玉嶋貞宏、委員長：大谷知穂）
 1. 委員会は開催されなかった。
 2. 第75回学術総会シンポジウムの演題・演者・座長を検討し、演者として参議院議員の秋野公造先生、日本医師会長島公之先生に御講演いただいた。
 3. 日本漢方臨床医会理事会に健康保険担当委員会理事（玉嶋貞宏）が参加し、情報交換を行っている。
 4. 第76回学術総会シンポジウム開催に向け、検討を行った。
- 〔2〕学術教育委員会（担当理事：佐藤寿一、副担当理事：網谷真理恵、委員長：吉永亮）
 1. 2025年4月24日、10月16日の計2回委員会を開催した。2025年10月27日、2026年3月3日に学生部会ミーティングを開催した。
 2. 第75回学術総会（2025年6月6日～8日、東京）における企画について
 - (1) 学生部会企画
 - ・第6回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム
 - ・フローチャート漢方治療 ロールプレイ
 - (2) 若手部会企画
 - ・全日本鍼灸学会若手分科会・和漢医薬学会次世代を担う若手研究者の会との合同企画「知っておきたい東洋医学最新論文10選！」
 - (3) 日本漢方医学教育協議会合同シンポジウム
 - ・第76回準備委員会より、漢方医学の革新的な教育に関するシンポジウムの企画依頼があった。
 3. 第76回学術総会（2026年6月12日～14日、富山）における企画について
 - (1) 学生部会企画
 - ・第7回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム
120分枠で実施
 - ・セッション別ワークショップ
地域：学生のサークル活動を活性化するための地域活動
夏の学校：サマーセミナーの内容
人生相談：東洋医学を学び続けるためのキャリアパス
看護：看護学生のサークル活動への参加促進
鍼灸：鍼灸に興味を持ってもらうための取り組み
 - ・仲景杯
今回は従来通りの開催。次回以降については学術教育委員会が担当するため教育に熱心な会員に委員就任を依頼することとした。
 - ・学生懇親会
 - (2) 若手部会企画
 - (3) 日本漢方医学教育協議会合同シンポジウム
 - (4) 全日本鍼灸学会との共同企画「医師のための鍼灸体験講座」
4. 他学会との共同企画について
 - (1) 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
 - ・第16回 2025年6月20～22日、札幌
東洋医学（漢方・鍼灸）の疑問点にお答えします！第3弾「メンタルケアに用いる東洋医学（漢方薬・鍼灸）」
 - ・第17回 2026年5月29～31日、京都
こんな時には漢方・鍼灸（企画担当：吉永亮）
 - (2) 日本病院総合診療医学会学術総会

- ・第30回 2025年2月22～24日、広島
総合診療医が知っておきたい便秘（企画担当：吉永亮）
 - ・第31回 2025年9月27～28日、姫路
総合診療に役立つ！急性期の「水」（胸水、浮腫、腫脹など）に対する漢方治療
（企画担当：吉永亮）
 - ・第32回 2026年2月21～22日、長崎
頭痛に対する漢方と鍼灸のアプローチ（企画担当：寺澤佳洋）
 - ・第33回 2026年8月8～9日、仙台
（企画担当：佐藤浩子）
- (3) 日本医学教育学会
- ・第57回 2025年7月25日～27日、秋田
実践！漢方の診察方法の基本をロールプレイで体験しよう！（企画担当：網谷真理恵）
 - ・第58回 2026年7月31日～8月2日、富山
（企画担当：網谷真理恵）
- (4) 日本自律神経学会
- ・第78回 2025年10月24日～25日、名古屋（企画担当：山口智、シンポジスト：佐藤寿一）
- (5) 日本神経治療学会
- ・第43回 2025年11月6日～8日、熊本（企画担当：山口智）
- (6) 日本頭痛学会
- ・第53回 2025年11月21日～22日、横浜（企画担当：山口智）
- (7) 日本臨床薬理学会
- ・第46回 2025年12月5日～6日、東京
日本医学会連合加盟学会連携フォーラム（日本臨床薬理学会・日本東洋医学会・日本医史学会合同シンポジウム）「漢方医学の未来を切り拓く：漢方医学の教育と臨床研究の最前線」（演者：佐藤、網谷、高山）
5. サマーセミナーについて
- ・学生部会より夏の合宿企画が提案されたことが報告されたが、企画内容が「東洋医学の学習」に焦点が合っていない為、次年度の開催は見送ることとした。
6. 医師国家試験について
- ・医師国家試験に漢方の問題を出題することについての要望書を過去2年提出しており、今年の提出について検討していることが報告された。
 - ・厚生労働省で国家試験作成の新しいグループが組織される旨が告示されたことが述べられ、グループが組織され次第、速やかに要望書と想定問題を提出することを検討していることが報告された。
7. 歯科における漢方薬使用について
- ・王宝禮委員より、日本歯科医学会・歯科医療協議会 歯科における漢方薬使用に関するワーキンググループ報告書（案）「歯科大学／大学歯学部と附属病院における漢方医学教育および漢方薬使用状況のアンケート調査」が提出された。
- [3] 鍼灸学術委員会（担当理事：鈴木雅雄、委員長：小内愛）
1. 2026年3月26日に委員会を開催した。
 2. 2025年JSOM東京大会では以下の2つのプログラムを企画・運営をした。
 - ①脳科学から鍼灸を再検討する。（山岡前担当理事、鈴木担当理事）
 - ②統合医療分野における臨床研究者の育成方法を考える（鈴木委員長）
 3. 明堂経を基にした経穴の穴位主治症に関して、第75回学術総会（東京大会）にて、全日本鍼灸学会とのジョイントプログラムを実施し、山見委員より以下の成果発表をおこなった。
「お灸の効果と機序について」長野県と愛媛県の鍼灸師グループを中心に、医心方を

骨子とした鍼灸甲乙経・外台秘要方の三書による明堂経の復元を行ってきた。また、実臨床での症例からも明堂経主治症の検討を行った。

4. 鍼灸治療に関するe-learningの構築について
伊藤委員より以前作成された鍼灸e-learning動画をJSOMで公開する件に関して、神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）に使用許可を取得した。掲載に当たっては、JSOM鍼灸学術委員会HPに動画をアップしており、会員はいつでも学習できるように環境を整えた。
5. 鍼灸のエビデンスに関する調査研究は、一部の分野で実施を行った。（慢性疼痛、緩和ケア領域、呼吸器領域）（加用委員、鈴木担当理事）
6. 鍼灸の生物学調査を行う（鍼鎮痛の機序）は、経穴の感作に関する文献調査を実施した。（加用委員、鈴木担当理事）
7. 漢方と鍼灸の医療連携に関する社会実装研究は、以下の2つの取り組みを実施した。
 - ①2025年11月9日に日本東洋医学会宮城県部会と全日本鍼灸学会東北支部との同時開催シンポジウムを実施した。（中沢委員）
 - ②2025年11月16日に日本東洋医学会香川県部会で「総合診療と鍼灸」講演を実施した。（松木委員）

〔4〕 E BM委員会（担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明）

1. 2025年6月8日、8月20日、2026年3月10日の計3回委員会を開催。
2. 漢方治療エビデンスレポートEKAT2025、英語版EKAT Appendix 2020、2021を公開。今後は年2回更新する方針とし、詳細は今後議論予定。
3. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドラインKCPG2025を公開。KCPG2025以降、名称を「KCPG2025 H1またはH2*」に統一し、更新頻度を半年ごとに変更のうえ、更新日を明記する。（*年度の上半期がH1、下半期がH2）
4. 「STORK」ウェブサイトの情報の充実およびアクセス数の増加を目的とし、新規3社を加えた全6社の添付文書の英訳を掲載し、さらに視認性を高めて公開。
5. 2026年学術総会にて委員会シンポジウム（診療ガイドラインと漢方）を企画。
6. EBM委員会の活動周知のため、メルマガやSNSでの発信を検討。具体案については今後議論する。

〔5〕 用語及び病名分類委員会（担当理事：星野卓之、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦）

1. 委員会は、開催されなかった。
2. 2025年6月6-8日開催の第75回日本東洋医学会学術総会で、用語及び病名分類委員会・JLOM委員会合同報告会として「ICD-11 伝統医学章の最新情報とAI活用例」（星野担当理事）及び「ICD-11 が拓く漢方医学の未来像」（津田委員長）の2題を発表した。
3. 2025年10月16日に、WHO-FIC (Family of International Classifications) 2025の伝統医学リファレンス・グループにオンライン参加し、日本のICD-11適用状況につき報告を行った。
4. 2026年1月13日開催の2025年度日本医学会分科会用語委員会にオンライン参加した。
5. 社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類部会（2025年5月15～21日書面開催）同専門委員会（5月21～27日、11月10～14日書面開催）の準備に協力し、ICD-11 伝統医学章について意見を提出した。
6. 日本WHO国際統計分類協力センター協力ネットワーク運営会議（2025年8月6日、2026年2月27日）でICD関連の報告を行った。

〔6〕 漢方医学書籍編纂委員会（担当理事：及川哲郎、委員長：鈴木達彦、副委員長：鈴木朋子）

1. 2024年4月26日、6月28日、9月13日、11月15日、2025年2月14日の計5回委員会を開催した。

2. 『漢方医学大全』の英訳版である『Complete Japanese Traditional (Kampo) Medicine』の編集作業を進め2025年9月に発刊した。
 3. 『日英対照 漢方用語辞書 基本用語』追補改訂版の編集作業を進めた。
 4. 『漢方医学大全』の改訂作業を進めた。
- 〔7〕生薬原料委員会（担当理事：川添和義、副担当理事：伊藤美千穂、委員長：有田龍太郎）
1. 2025年9月11日、11月26日の計2回委員会を開催した。
 - 1) 生薬診療の収益性の悪化から生薬を取り扱う薬局、医院が減少している一方、煎じ薬の臨床的価値は依然高い。本委員会として学会内外への生薬・煎じ薬についての啓蒙活動を続けていく方針を確認した。
 - 2) 上記の状況や課題を行政・政界へも報告することができるよう、生薬と薬用植物に関する提言書を作成した。
 2. 国産生薬栽培地見学を実施した。
 - 1) 2026年2月23～24日に、川添理事、有田委員長、渥美委員、高浦委員が、福井県大飯郡高浜町のトウキ、サイコ、シソ等の栽培地に状況確認に赴いた。
 - 2) 次年度以降の見学地の計画を検討した（大分県、秋田県など）。
 3. 第75回学術総会（東京）における委員会企画を実施した。
 - 1) 煎じ薬体験セミナー
株式会社栃本天海堂及び株式会社ウチダ和漢薬の協力を得て、1日2回の体験セミナーを実施。
 - 2) 国産生薬展示
一般社団法人日本生薬学会とのコラボ企画として、国産生薬のパネル並びに現物の展示。
 - 3) 生薬基礎講座
日本漢方ソムリエ協会の協力を得て、生薬に関する30分程度の講座を実施。
 - 4) 生薬原料委員会企画シンポジウム
『国産生薬の光と影』と題した国産生薬に関するシンポジウムを3名の演者による講演と総合討論で実施。
いずれの企画も大変盛況であり、各企画について論文を投稿準備中である。
 4. 日本生薬学会第71年会におけるコラボ企画を実施した。
他学会との協力企画として、2025年9月15日に実施された「日本生薬学会第71年会」（熊本）において、日本東洋医学会コラボセッション『痛みの漢方治療』（演者：平田道彦先生）を開催した。
 5. 日本生薬学会関東支部への後援事業
会員に対する生薬・薬用植物関連情報提供の一環として、一般社団法人日本生薬学会関東支部春季植物観察会（千葉県東金市八鶴湖）および秋季植物観察会（守谷野鳥のみち）を後援した。
 6. 第76回学術総会（富山）における委員会企画について
 - 1) 2026年6月12日（金）から開催される学術総会において企画シンポジウムを行う予定とし、実施に向けて検討した。
 - 2) 「生薬を未来に「つなぐ」ために－生薬診療の実情と工夫－」と題して、3名の演者による講演と総合討論を実施。
 7. その他
 - 1) 森野旧薬園春季展覧会からの協力依頼。
高浦委員より森野旧薬園春季展覧会への「協力」名義使用依頼が出され、理事会で承認された。
 - 2) 日本生薬学会第72年会におけるコラボ企画や日本生薬学会関東支部への後援を計画した。

〔8〕 臨床研究推進委員会（担当理事：高山真、委員長：吉野鉄大）

1. 2025年5月26日、7月2日、12月3日、2026年1月25日の計4回委員会（メール審議を含む）を開催した。
2. 2025年6月から、委員会名を「臨床研究検討委員会」から「臨床研究推進委員会」に改名した。
3. 2025年度臨床研究支援事業 採択課題の選定を行った。
4. 2026年2月8日、漢方臨床研究ワークショップ2026冬セミナーを開催した。

学術交流事業

〔1〕 渉外委員会（担当理事：野上達也、委員長：畝田一司、副委員長：井上博喜）

1. 2025年9月11日、11月26日の計2回委員会を開催した。
2. 2025年6月から、国際担当を国際委員会として設置した。
 - 1) VARYTEX社との共同開発事業について推進した。KAMPO365worksを5月に製品化したことが報告され、今後の漢方ソフトウェア開発協力のためのVARYTEX社との基本協定内容の確認を行った。
 - 2) ISOへの新規提案を渉外委員会で取り扱うこととなり、検討した。
 - 3) AMED活動（241k0310096h0002）の進捗状況が報告され、研究協力をを行った。

〔2〕 国際委員会（担当理事：元雄良治、委員長：高村光幸）

1. 2025年8月21日、12月1日の計2回委員会を開催した。
2. 国際委員会としての今後の短期目標（国際学術活情報発信と周知）、中期目標（国外の関連学会活動関連論文の作成）、長期目標（対照用語集を整備や国際学会参加費支援）を立案した。
3. ISJKM (International Society for Japanese Kampo Medicine/International Symposium for Japanese Kampo Medicine)、ISOM (International Society of Oriental Medicine=国際東洋医学会)、SKOM (The Society of Korean Medicine=大韓韓医学会) の状況についての周知と今後の協力体制について議論した。
4. 2026年に開催される第76回学術総会および韓国にて行われる学術交流シンポジウムのテーマと演者選考を行った。
5. 2025年12月にソウルCOEXで日韓学術交流シンポジウムが開催され、出席者の調整をサポートした。
6. 2027年に開催される第77回学術総会が国際東洋医学会学術総会と同時開催されることから、これに対する協力体制を検討した。
7. 諸外国からもたらされる交流事業内容についての調査議論を行った。

〔3〕 J L O M委員会（担当理事兼委員長：牧野利明、副担当理事：並木隆雄、副委員長：野上達也）

1. JLOM内の理事会に相当する、経済産業省、厚生労働省、三菱総合研究所のアドバイザーも交えたISO/TC249国内審議団体会議を、計4回開催した。
2. ISO/TC249中国伝統医療の全体会議が、6月2～5日にオランダ、アムステルダムで開催され、日本からは16名が出席した。
3. 6月8日に開催された第75回日本東洋医学会学術総会では、JLOM委員会主催シンポジウムを開催し、活動を会員に報告した。
4. Facebookグループ「日本伝統医学の未来を創る会」でのオンラインシンポジウムを、計7回、開催した。
5. 日本からの国際標準ISO/16843-1 Health informatics - Categorical structures for representation of acupuncture - Part 1: Acupuncture pointsが、12月3日に無事に発行された。
6. 2026年度のISO/TC249中国伝統医療の全体会議は、6月1～4日に東京都内で開催することとなり、その準備を行っている。

学術総会・支部事業等

〔1〕第75回学術総会（会頭：久光正、準備委員長：砂川正隆）

1. 2025年6月6日（金）、7日（土）、8日（日）の3日間に亘り、久光正会頭のもと、京王プラザホテルにて開催した。会員・非会員・招待者の参加者合計は3,360名であった。

〔2〕支部事業

1. 全国8つの支部において支部総会及び都道府県部会（学術講演会）を開催した。

認定事業

〔1〕専門医制度委員会（担当理事：貝沼茂三郎、委員長：野上達也、副委員長：栗山一道）

1. 2025年4月12日、5月27日、9月6日、10月25日、2026年1月26日、3月15日の計6回委員会及びメール会議を開催した。
2. 2025年度専門医試験を11月24日に行い、49名が受験し、41名を合格とした。
3. 2025年度認定医試験を11月24日に行い、3名が受験し、2名を合格とした。
4. 漢方専門医更新対象者821名の内、更新要件を満たす653名の更新を認可した。
5. 認定医更新対象者39名の内、更新要件を満たす28名の更新を認可した。
6. 研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。
7. 各地区において教育事業を開催した。
8. 第75回学術総会において指導医講習会、専攻医のための説明会、医療倫理・医療安全講習会を実施した。
9. eラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。
10. 専門医通信を2回発行した。
11. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
12. 一般社団法人日本専門医機構へのサブスペシャリティ領域としての申請に向けて、研修プログラムを整備して研修システムの充実を図り、研修施設の整備・充実を図った。
13. 専攻医登録のシステム化を進めた。
14. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。

管理事業

〔1〕運営委員会（企画担当理事兼委員長：山田和男、財務担当理事：小菅孝明、副委員長：中江啓晴）

1. 2025年4月28日、7月7日、9月1日、11月17日、2026年2月9日、3月16日の計6回委員会を開催した。
2. 2026年度予算を纏め、理事会に上程した。
3. 2025年度決算を纏める作業を行った。
4. 2025年度補正予算案を纏め、理事会に上程した。
5. 第77回定時社員総会に推挙する名誉会員候補者について審議し、理事会に上程した。
6. 第76回定時社員総会の開催について審議し、理事会に上程した。
7. 生成AIの利用に関する規程案を纏め、理事会に上程した。
8. 名誉会員推挙基準内規の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
9. 名誉会員推薦基準内規案を纏め、理事会に上程した。
10. メールマガジン運用管理規程の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
11. 激甚災害指定による会費免除について審議し、理事会に上程した。
12. 学術総会の英語表記及び略語について審議し、理事会に上程した。
13. manaableの継続利用の可否について審議し、理事会に上程した。
14. 有罪判決を受けた会員への対応について審議し、理事会に調査委員会の設置を上程

した。

15. SNSの活用について検討した。
16. 学術総会の撮影データ利用について検討した。
17. 支部からのメールマガジン配信について検討した。
18. 会員増加と学会収支健全化に向けた対策について検討した。
19. 第76回学術総会での委員会企画シンポジウムを企画した。
20. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
21. 理事会からの諮問事項について検討した。

〔2〕 広報委員会（担当理事兼委員長：中島正光）

1. 2025年7月27日の1回委員会およびメール会議を開催した。
上記のほか、広報委員会内およびサイエンスネットとの打合せを、Zoomまたはメールにより複数回実施し、本学会の広報活動の推進に関する検討および調整を行った。
- 2 日本東洋医学会ホームページリニューアル
ホームページのデザイン、内容、画像などを委員の間で討論し、作成した。そしてサイエンスネットと契約し発注を行い、本学会のホームページの新規作成を行った。既に理事会の承認をいただき、本年度中に実際に活用できる予定である。
- 3 日本東洋医学会SNS掲載運営指針
YouTube、InstagramなどSNSの倫理指針（日本東洋医学会SNS掲載運営指針）を作成し、学会の顧問弁護士にチェックを受け、その後理事会での承認を得て完成させることができた。
- 4 DCB (Digital Communications Bureau)
本学会の広報活動を強化するために、DCB (Digital Communications Bureau) を立ち上げ、多職種・多年齢層のメンバーに集まっていただき議論し、今後の活動を行う準備をした。
- 5 メールマガジン
メールマガジンの管理、配信などを行った。

〔3〕 倫理委員会（担当理事兼委員長：吉田麻美）

1. 2025年11月25日、2026年2月17日の計2回委員会を開催した。
2. 第75回日本東洋医学会学術総会の登録演題203題について、個々に倫理的問題がないか、カテゴリー分類、倫理審査の必要性について再検討をおこなった。
3. ホームページに掲載した「日本東洋医学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（2024年9月1日）」「カテゴリー分類」「チェックリスト」「Q&A」についての確認を行った。

〔4〕 利益相反（COI）委員会（担当理事兼委員長：星野卓之）

1. 2026年2月19日開催の第8回日本医学会分科会利益相反会議に出席した。

〔5〕 コンプライアンス委員会（担当理事兼委員長：並木隆雄）

1. 2025年10月8日、12月2日、2026年3月9日、3月24日の計4回委員会を開催した。
2. 2件の案件に対して、対応した。
3. （1件目）2025年前半に送付された専門医制度委員会関係の匿名の告発文に対する対応をおこなった。
2025年10月8日、12月2日の計2回委員会を開催し、2月の理事会にコンプライアンス委員会としての助言を報告した。
3月の理事会で、今後の対応方針を理事会内で決定することを依頼した。
4. （2件目）運営委員会から、来年度に名誉会員に推薦する予定者のコンプライアンス状態の確認の依頼があった。
2026年3月9日と同年3月24日の計2回委員会を開催し、1名の申請者について、コンプライアンス上の問題を討議。
3月の理事会に、コンプライアンス委員会からの助言を答申した。

〔6〕医療安全委員会（担当理事兼委員長：中島正光）

1. 2025年11月10日に委員会を開催した。
2. 3つのグループに分かれて活動することにした。
個々のグループで活動して効率よく進める。全体会議で、客観的な意見などを聞く会議も開催する。
 - A) 副作用グループ
薬剤性肺炎、偽アルドステロン症、腸間膜静脈硬化症など。
 - B) 副作用の予防グループ
副作用が発症しやすい遺伝子がわかるかなどの検討を行う。さらに、アドバイザーを増やす予定。
 - C) 医療経済グループ
漢方薬が用いられることにより処方西洋薬の数がどの程度減少するかを検討をする。漢方診療、西洋医学全体の医学における医療安全につながる内容とする。
3. 2026年6月第76回日本東洋医学会学術総会のシンポジウムで報告予定内容。
 - ・発表者名：嶋田沙織、本間真人
タイトル：甘草含有漢方薬投与による偽アルドステロン症のリスク因子
 - ・発表者名：中島正光
タイトル：薬剤性肺炎の確定診断の問題点と原因生薬としての黄芩について
 - ・発表者名：赤瀬朋秀
タイトル：漢方薬の医療安全と医療経済に与えるインパクト～ポリファーマシーの改善に漢方薬が果たす役割～
 - ・発表者名：高岡裕
タイトル：山梔子の副作用とそのメカニズム～遺伝子パネル検査での回避に向けて

〔7〕定期刊行物（担当理事：砂川正隆）

1. 会報を2025年4月、7月、10月、2026年1月の年4回発行した。

事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。